

## 不登校児童生徒への対応事例3（中学校第1学年女子）

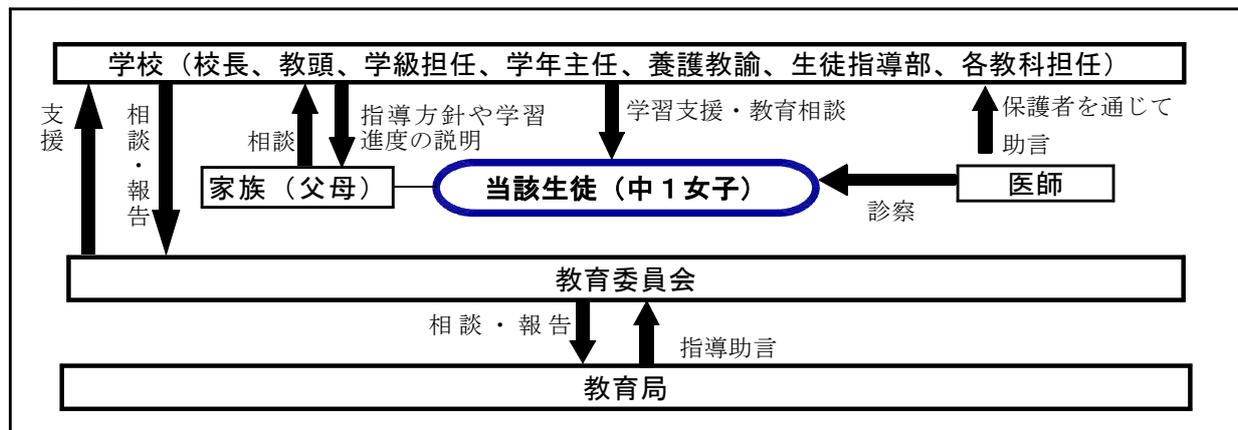
### ～学校と関係機関が連携を図った対応～

#### 問題の把握

当該生徒は、体調が悪くなると顔にアザが出るようになり、周りからそのアザについて言われるのではないかと考え、2学期から登校できなくなった。

医師の診察では、アザは病気ではなく、精神的なものではないかということであったが、保護者は学校に登校刺激を控えてほしいと相談した。

#### 対応状況



#### ■ 教育局の対応

支援の方針の明確化など全教職員での支援体制の確立、当該生徒に対する教育相談体制の充実などについて指導助言した。

#### ■ 教育委員会の対応

教育局の指導助言を受け、学校へのきめ細かな支援を行った。

#### ■ 学校の対応

教育局の指導助言や教育委員会の支援を受け、

- 保護者を通じて得た「登校刺激を与えないほうがよい」という医師の助言を受け、当該生徒の状況に応じた支援プランを作成した。
- 家庭訪問による学習プリント等を活用した学習指導のサポートと、担任を中心とし、教育相談の実施など、心のケアに努めた。
- 時間をずらして登校したり、別室を用意するなど、登校しやすい環境づくりに努めるなど、当該生徒の心の負担を軽減するよう努めた。

#### 支援の経過

- |        |   |
|--------|---|
| 8月下旬～  | ・家庭訪問による学習プリントの配付や回収など学習指導のサポートを開始した。   |
| 11月上旬～ | ・当該生徒が登校する意欲を見せ、保健室登校するようになり、教科担任を中心に個別学習で指導した。   |
| 12月上旬～ | ・12月に入り、保健室登校は続いたが、ほとんど欠席することもなくなった。<br>・保健室から出て、体育の授業を参観したり、仲のよい友達とは、休み時間などに交流する様子も見られた。 |

#### 不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・学校、医師、教育委員会が連携を図った対応をする。
- ・当該生徒への支援の方針や体制を確立する。
- ・当該生徒や保護者の悩みに寄り添った支援を粘り強く行う。